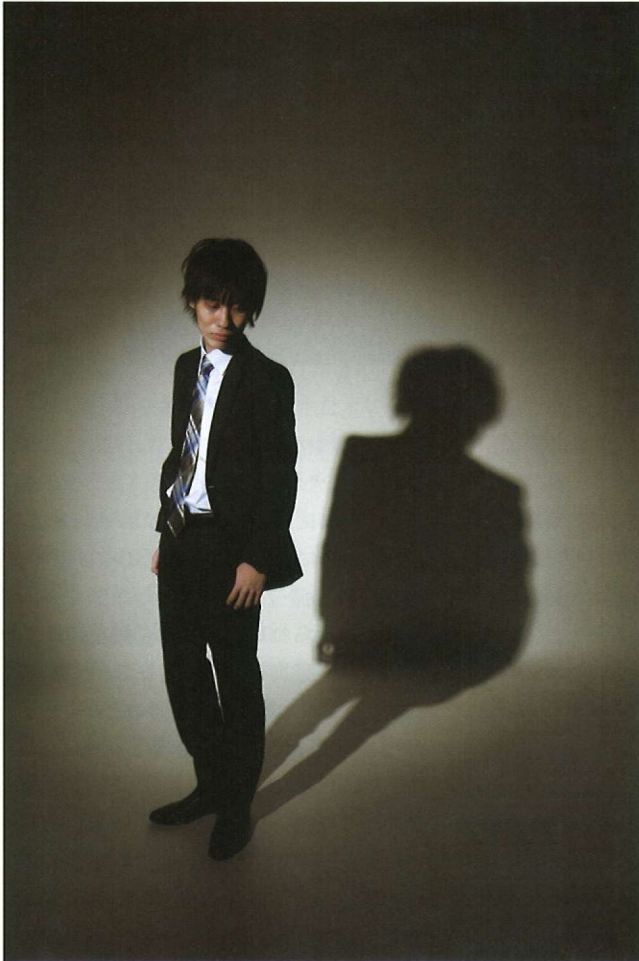


本格プロ仕様ストロボの導入により 子どものみならず成人の撮影も増加

プレシユスタジオ豊洲店



2011年に一軒家貸切型子ども写真館として第1号店「自由が丘店」を創業して以来、こだわりのある内装で自然光あふれるスタジオを貸し切り、リラックスした雰囲気の中で子どもや家族の自然な表情を撮影する「プレシユスタジオ」を運営するディッグ・フィールズ・アンド・コー株式会社。2018年9月現在、直営店(自由が丘店・世田谷本店・豊洲店・江東南砂店)4店舗をはじめ、関東・関西に全11店舗を運営している。本年9月には「新宿曙橋店」、10月には「府中大國魂神社店」をオープンし、これにより全国で13店舗を有する。

直営店のうち、昨年10月にオープンした「豊洲店」は、プレシユスタジオのフラッグシップ店舗に位置付けられている。豊洲は大手子ども写真チェーンがひしめくフォトスタジオの激戦区だが、「激戦区になっているということは、それだけ子ども撮影の需要も高い」と考えて、あえて熾烈な市場に飛び込み、オープンから約1年経過した現在に至るまで、リピーターや口コミによる集客などで多くの顧客を集めている。店舗の周辺には高層マンションが立ち並び、富裕層も多い。とくに豊洲店は口コミによる影響が大きいようで、多くのファミリー層

の記念写真のニーズに対応してきた。

第3世代の子ども写真館として、撮影のメインはキッズやファミリーが中心だが、他の店舗に比べて豊洲店は成人やマタニティ、ペットなどの需要も高いという。フォトグラファーとコーディネーターが2人1組になって撮影に臨んでいるが、単にハイクオリティな写真を撮るだけでなく、ホスピタリティも重視しており「お客さまに感動していただけるように、細かな面で配慮している」(ディッグ・フィールズ・アンド・コー保守制作部マネージャー・井上一磨氏)そうである。



撮影した写真はデータ納品のみならず、アルバムやフレームなどの商品購入率も高い。両家の祖父母へのプレゼント用も含め、全カットを収録したアルバムを3冊購入する家族もいれば、「フォーマルな撮影に関しては写真台紙を注文されるケースも少なくない」という。またプレッシュスタジオでは、後日注文にも対応しており、このため「撮影後にアルバムなどの商品を注文されるお客さまも多い」そうである。

フォーマルな撮影にも柔軟に対応できる環境

冒頭で触れたように、プレッシュスタジオは一軒家貸切型を売りとしており、カジュアルなスタイルで撮影することが多い。文字通り一軒家型なので、一般的な写真館のようにバック紙を使った型モノ撮影とは異なるが、豊洲店は多面スタジオを有し、白ホリでの撮影も行っている。

ライティングに関しては、オープンと同時に導入したプロフォト株式会社のモノブロックストロボ「D1シリーズ」やバッテリータイプの「B1X 500 AirTTL」（以下B1X）を活用。多灯によるバリエーション豊富なライティングでハイクオリティな撮影を実践している。スタジオライト「Profoto A1」（以下A1）が発売されてからは、オンカメラでの撮影を行う機会も増えたようだ。

「B1Xのようなバッテリータイプのストロボを導入したことで、スタジオ内をお子さまが走り回っても、コードレスな環境を構築できたことで、足を引っかけてしまう危険性がない。また充電が速いため、フォトグラファーやコーディネーターの連携で引き出すお客さまの素敵な表情も逃さず撮ることができる」（同社直営店事業部チーフカメラマン・吉川宜孝氏）。豊洲店では、差し込む西日も取り入れながら撮影することもあるが、ハイクオリティな光を創造できるプロフォトの機材によって、バラエテ

ィに富んだライティングを実践している。ソフトボックスやアンブレラ、グリッドなどといった豊富なラインアップを誇るライト・シェーピング・ツールも活用。「柔らかい光によって、お子さまの肌も美しく再現」するなど、競合店と差別化を図った高品質写真を提供している。

機材の使い勝手も良く、「A1はマグネット式マウントを採用した専用ライト・シェーピング・ツールも用意されているので、スピーディーに脱着できる」のもフォトグラファーにとっては大きな利点となっているようだ。こうしたプロフェッショナルなライティング機材をフル活用することで、自然光を中心としたカジュアルな写真のみならず、フォーマルな写真にも対応するなど「撮影の幅が広がっている」ようだ。

9月中旬の本誌取材時点では、プロフォトの機材は豊洲店のみでの使用となっているが、今後は他店での活用も視野に入れていきたいとしている。